

平成 23 年度 第 1 回コンクリート委員会・第 3 回常任委員会合同会議 議事録

日 時：2011 年 9 月 6 日（火）14：00～17：00

場 所：ホテル JALCITY 松山 2 階ドゥエミーラ

出席者：二羽委員長，下村幹事長

魚本，長瀧，町田の各顧問，

牛島，遠藤，岡本，佐伯，佐藤，手塚，服部，三島，守分，渡辺の各委員，

石橋，井上，入矢（代：竹田），上田，宇治，岡澤，金津（代：松村），鎌田，河合，岸，堺，鈴木，

武若，田中，中村（代：国枝），西垣，信田，橋本，丸山，宮川，睦好，森川，横田，六郷の各常任委員，

綾野，岩波，小林，佐藤，久田，丸屋の各常任委員兼幹事，宮里オブザーバー，村木（事務局）（敬称略）

配付資料：

3-0 平成 23 年度第 3 回常任委員会 議事次第

3-1 平成 23 年度第 2 回常任委員会 議事録（案）

3-2 土木学会コンクリート委員会 委員会活動報告（2010 年 9 月～2011 年 8 月）

3-3-1 示方書改訂小委員会施工編部会 委員構成

3-3-2 示方書改訂小委員会ダムコンクリート編部会 委員構成

3-3-3 土木材料実験指導書編集委員会 委員構成

3-4 平成 23 年度コンクリート委員会 予算

3-5 2012 年制定 コンクリート標準示方書〔共通編〕素案

3-6 施工性能にもとづくコンクリートの照査・検査システム研究小委員会 2 期目 委員構成

議事：

0. 司会からのアナウンス(岩波幹事)

会議の冒頭に、本年度から常任委員会とコンクリート委員会との合同会議に 3 種委員会委員長も参加すること、また、昨年 of 合同委員会で指摘のあった、技術シリーズの原稿の電子ファイルの保管について、鋭意作業中であること、について司会よりアナウンスがあった。

1. 委員長挨拶（二羽委員長）

二羽委員長より、以下のような挨拶がなされた。

- ・ 年 1 回のコンクリート委員会なので、コンクリート委員会委員の皆様は、忌憚のない意見を。
- ・ 震災、水害が世界最先端の技術を持つ日本で起こることは遺憾。インフラの整備は終了しているという意見には同意できない。整備を継続する必要がある。
- ・ 示方書の改訂が鋭意作業中。2012 年末に原稿完成→2012 年度末に刊行、を目指している。本日はその一部について報告がなされるが、忌憚のない意見を。

2. 平成 23 年度第 2 回常任委員会議事録の確認【資料 3-1】（岩波幹事）

- ・ 内容が確認され、異議なく承認された。

3. 審議事項

(1) 1 種・2 種委員会の活動報告【資料 3-2】（二羽委員長）

二羽委員長から、前年のコンクリート委員会（2010 年 8 月末開催）以降の 1 年間における 1 種・2 種委員会の活動報告が行われた。主な質疑は以下の通り。

- 222 委員会の報告書の PDF ファイルが土木学会のホームページに掲載されているが、同じものが重複して掲載されているなど整理が悪く、見にくい。(長瀧顧問)
 - コンクリート関係のものはコンクリート委員会のホームページにもまとめているので、そちらも参照して欲しい。(佐藤幹事)
- 上記 PDF ファイルを講義や講演会などで使用してよいか？(長瀧顧問)
 - コンクリート委員会のサイトに掲載のものは、掲載許可を受けているので、使用していただいて構わない。(下村幹事長)
- 221 委員会の検討内容に津波の波力が含まれているが、コンクリート委員会内で取り扱うことができる内容か？(町田顧問)
 - 土木学会全体の委員会とってしまうと、時間がかかり、また、意見を集約できるかどうか疑問である。また、津波の作用については示方書の中にも言及はあるが具体性がないので、コンクリート委員会内に設置することとした。コンクリート以外の分野からも多数の研究者にご参画いただいている。少なくともコンクリート構造物の設計などに使える波力の算出方法を明示したい。(丸山委員)
 - また、津波については、土木学会会長直属の津波特定テーマ委員会で検討して、指針を取りまとめる予定である。レベル 1、レベル 2 (仮称) という 2 つの津波レベルを想定しているようだ。(丸山委員)
- 環境をキーワードとした委員会が多いが、コンクリートを廃棄物の処分先とするような風潮があるため、スタンスに注意が必要である。(町田顧問)
 - 219 委員会に関しては、現状を正しく把握することを目的としている。(河合委員)
 - その場合でも、次への提言が必要である。(宮川委員)

(2)3 種委員会の活動報告【資料 3-2】(下村幹事長)

下村幹事長から、前述の 1 種・2 種委員会の活動報告と同様に、最近 1 年間における 3 種委員会の活動報告が行われた。主な質疑は以下の通り。

- 3 種委員会は世界での最先端の研究を行っている。活動を積極的に世界に発信するとともに、海外の類似内容の委員会にもぜひ参加するとよい。(睦好委員)

(3)1 種 2 種委員会の委員交代【資料 3-3-1, -2, -3】(二羽委員長)

二羽委員長より、示方書改訂委員会の施工編部会とダムコンクリート編部会、土木材料実験指導書編集委員会の委員交代が提案され、異議なく了承された。

(4)平成 23 年度コンクリート委員会予算計画【資料 3-4】

下村幹事長より、概要について説明がなされた。また、示方書改訂のための作業が活発化してきたので、予算を増額した、という補足説明がなされた。最近の委託委員会の状況について質疑があった。

4. 報告事項

(1)コンクリート標準示方書【共通編】の審議経過報告【資料 3-5】

武若共通編部会主査より、現在新たに作成中の示方書【共通編】の概要について、説明がなされた。

- 構造工学委員会の「共通示方書」を参照する形にしてほしい。(鈴木委員)
- 2.2.2「設計耐用期間」によれば、当初から補修を想定した設計も可能、ということか？(鈴木委員)
 - そうである。港湾構造物などでは、このようなケースがあり得る。(武若委員)
 - イニシャルコストを下げてもよい根拠などに悪用されないように表現に注意する必要がある。(鈴木委員)
- 環境について具体的作業のイメージがわきにくい。コンクリートを使わない、という方向に行かないか？環境を考慮することで設計は何が変わるのか？(鈴木委員)
 - コンクリートを採用すると決まった後の話である。設計への影響は、具体的などころまでには踏み込めていない。(武若委員)

- 維持管理で蓄積されたデータを、新しい構造物にフィードバックする流れを明示することが重要である。
(佐藤(良)委員)
 - 解説文中ではそのことに触れている。(信田委員)
 - 現状では一つの構造物のライフサイクルを取り扱っているの、設計に戻ることはないが、別途図を追加することを考える。(武若委員)
- 指針・マニュアルは、制定時の示方書に準拠している。指針・マニュアルのリストは使用可能か精選する必要がある(長瀧顧問)
- p.31の発注者と請負者(受注者)との関係について、設計段階、施工段階、維持管理段階ではそれぞれ異なるはずだ。(長瀧顧問)
 - 「共通示方書」にならっている。改めて見直す。(武若委員)
- 意見があれば、村木さん宛に送付してほしい。(丸山委員)

(2)3種委員会の委員構成【資料3-6】(岩波幹事)

341委員会(施工性能にもとづくコンクリートの照査・検査システム研究小委員会)の2期目の委員構成について報告がなされた。

(3)国際セミナー・講習会開催報告

- 1) タイでの国際セミナーを8月17日に開催した。日本から5名(丸山委員、睦好委員、中村委員、名古屋大学 水谷教授、九工大 幸左教授)が話題提供し、約100名の参加者があった。(睦好委員)
- 2) 218委員会の報告会を8月2日に実施した。(宮里オブザーバー)

(4)219委員会の成果報告書(河合委員)

- 幹事会にてコンクリートライブラリーとしての発刊を判断。次回常任委員会に提出予定であり、審議をお願いしたい。2012年度に発刊予定。
 - 企画書と販売促進計画の提出を。(丸屋幹事)

(5)全国大会研究討論会(下村幹事長)

全国大会初日の9月7日に、コンクリート委員会と構造工学委員会との合同開催で、研究討論会「東日本大震災における土木構造物の被害と教訓」を開催するので、多数のご参加を。

(6)その他

堺委員より国際会議 Concrete Sustainability が、綾野幹事と宮川委員より国際会議 SMCT が紹介された。

5. その他

第4回常任委員会：2011年11月28日(月)14:00~17:00 於：土木学会

(次回幹事会：2011年11月17日(木)15:00~17:00 (案件の締切は前日11/16))

以上